



綾の照葉樹林プロジェクト

20周年記念イベントを開催

「綾の照葉樹林プロジェクト（通称・綾プロ）」は、綾北川・綾南川の流域に残された国内最大級の原生的な照葉樹林を保護するとともに、保護林の間に存在する人工林や二次林を照葉樹林に復元することを目指し、綾町と宮崎県、九州森林管理局、（公財）日本自然保護協会、（一社）てるはの森の会の5者連携で取り組んでいる協働事業です。

今年を取り組み開始から20年。その歩みや課題を確認し、これからの綾プロの取り組みや綾町の環境保全について共に考えようと、20周年記念イベントを開催しました。

1月24日に町公民館文化ホールで開催した記念報告会には、町民の皆さんや関係者など約200人が参加しました。綾プロのこれまでの取り組み報告からスタート。続いて日本自然保護協会の土屋俊幸理事長による基調講演が行われました。

土屋理事長は、2030年までに自然を回復軌道に乗せ2050年までに完全

な回復を目指す「ネイチャーポジティブ（自然再興）」が世界的な目標として掲げられた経緯を説明。環境保全の強化はもちろん、持続可能な農業の推進、里山やビオトープの整備など、自然と共生する社会の実現に向け企業・行政・個人な



綾プロ報告会の様子





ガイドの解説を聞きながら森の中を歩いた照葉樹林ウォーク

どが一体となって取り組むことの重要性を訴えました。

さらに国内外の取り組み事例も紹介しながら、「綾プロはその先駆的存在。課題もあると思うが、さまざまな主体が参画することでプロジェクトの継続・拡大を図ってほしい」と期待を寄せました。

また、町内で「自然共生サイト」の取り組みを実践している(公財)イオン環境財団や東洋紡(株)の代表者と綾プロ関係者とのパネルディスカッションもありました。シカの食害や事業の普及など、両者に共通する課題や展望などについて、多角的な視点から意見交換が行われました。

翌日の「照葉樹林ウォーク」には、町内外から約30人が参加。寒空の下、照葉大吊橋から川中自然公園まで3時間かけて散策しながら、ガイドとともに国有林・県有林・町有林を観察しました。照葉樹林文化館で猪汁の振る舞いもあり、冷えた体を温めながら、参加者とスタッフとで意見交換を行いました。

照葉樹林の保護・復元には、長い時間と多くの皆さんの協力が不可欠です。「いのち豊かな綾の森」を未来に残すため、そして人が自然と共に暮らせる町を持続できるように、綾プロにぜひ協力と参画をお願いします。

